

○英語科における令和元年度授業改善推進プランの検証

・取り組みにおける成果と課題

年度当初に4技能を伸ばすための指導計画を立て年間を通して実施した。また、少人数指導を取り入れることで、具体的な指示が必要な生徒へ声かけを行い、きめ細かい指導・支援ができるようにし、4技能の向上に向けて取り組んだ。以下に、各技能別の指導目標に基づいた指導内容と課題を列挙する。

1 「関心・意欲・態度」

○成果

関心・意欲を高めるために、歌やチャンツの活動を取り入れ、生徒の主体性・積極性を引き出せるように、ペア活動を多く行い、生徒が自ら学ぶ環境を整えた。また、電子黒板や書画カメラなど、ICT機器を活用することで「わかりやすい」「興味をもたせる」授業展開に努めた。

●課題

少人数授業展開における教員間の情報共有と共通実践の確認ができない場合があることが挙げられる。

2 「書く能力」

○成果

「書く」ことの抵抗感を減らすために、基本文のディクテーションや状況を設定した中で英作文を書くことの頻度を高め、英文を書くことに慣れていくようにした。

●課題

基本文の定着の機会を多く設けるとともに、全学年を通して、書くことを継続的、統合的に進めていくことである。

3 「話す能力」

○成果

帯活動としてペア活動を中心としたチャットを行い、新出事項ではオーラル・イントロダクションでの導入をした。スピーチや暗唱などの発表活動を学期ごとに計画し、実施したので、今後も継続していく。

●課題

基本文の定着を図る指導の工夫と改善

4 「読む能力・聞く能力」

第2学年において

○成果

- ①ほとんどの学習領域において目標値を上回った。
- ②外国語理解の能力の観点のほとんどの項目において目標値を上回ることができた。
- ③特に対話の流れと資料から情報を読み取る問題では、16.3ポイント上回る結果となった。

2学年ではスペリングコンテストや学習オリンピックを学期に数回実施することができた。新文型導入時にチャット形式のペアワークを毎回行った。ワークシートを中心に教科書内容理解を深めた。

●課題

場面に応じての英語表現やある程度まとまった英文で自己表現していく問題にやや課題を残しているので、継続的に新文型の復習を兼ねた自己表現の活動を増やしていく。

第3学年において

○成果

- ①全ての学習領域において目標値を大きく上回った。
- ②外国語表現の能力の観点で目標値を22.2ポイント上回る結果がみられた。また他観点でも平均10ポイントを上回った。
- ③短答と記述の解答形式の単語の並べ替えによる英作文において、目標値を31ポイント上回る結果が見られた。

3学年については単語テストをレッスンごとに毎回行うことができた。教科書のReadingを中心にまとまりのある英文を読み、Q&Aを行い、概要を読み取るようにした。1学年の段階から教科書音読の練習に力を入れ、それぞれのレベルに併せたリーディングタスクに毎時間、取り組んでいる。

●課題

意図的・計画的により多くの題材を準備し、読む活動を積極的に取り入れる。
 全学年で教師の英語発話量を80%以上に維持していることで、指示についてはほぼ理解ができている。
 概要や詳細を聞き取ることに特化した教材開発や指導の工夫が課題である。

○英語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年			
第2学年	全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△		
第3学年	全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△	全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△	

内容別結果の分析

- 2学年においては、カテゴリー別正答率の全9項目中9項目で全国平均正答率を上回っており、目標値をすべて超えている。「語いの知識・理解」「場面に応じて書く英作文」「3文以上の英作文」の項目に課題が見られる。ビンゴや小テストなどの継続した語彙力を伸ばすための活動、場面に応じて適切に応答できる力を育成するための表現活動や1つのテーマについて自由英作文を作成する活動を今後はより多く取り入れる必要があると考える。
- 3学年においては、カテゴリー別正答率の全9項目中9項目で全国平均正答率を上回っており、目標値をすべて超えている。「語いの知識・理解」「語形・語法の知識・理解」の項目に課題が見られるので、継続して小テストなどで基礎となる単語力を付け、長文を正確に読み解く力や、Q & A形式のテストを行い、適切な応答の力を付ける指導を行う。

観点別結果の分析

- 2 学年においては、観点別正答率では4 観点で目標値を上回っており、学力が定着している。特に、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の3 観点においては目標値を大きく上回っている。「外国語表現の能力」の観点では、「書く」活動を重点的に取り入れるために、基礎語彙力定着の活動や既習文法事項を用いて、あるテーマに沿ったまとまりのある英文を書くなどの活動を増やしていく。「話す」ことに関しても、暗唱やスピーチやパフォーマンステストを継続的に実施し、積極的に英語で表現しようとする力を養う活動を行っていく。
- 3 学年においては、観点別正答率では4 観点で目標値を上回っており、学力が定着している。特に、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語理解の能力」「外国語表現の能力」の3 観点においては目標値を大きく上回っている。「言語や文化についての知識・理解」の観点では、継続して基礎的な語いや文法力を付けるために生徒の理解度を見ながら展開を考え、単語テストを定期的に行い、語形や語法を正しく理解するために授業内で1・2 年次の文法を振り返る時間を確保する。また、継続して、スピーチや暗唱、パフォーマンステストを継続して行い、積極的に英語で表現する力を伸ばしていく活動を行う。

○英語科の授業改善のポイントと具体的な授業改善策

- 1 「関心・意欲・態度」が育つ授業をする。
 - ・ 全学年で少人数授業を取り入れ、個々の生徒のつまづきを解決できるよう、きめ細かい指導をする。
 - ・ 生徒の実態を十分把握し、興味や関心を高めるための教材づくりを行う。
 - ・ 教員同士の情報交換を毎日の放課後に行い、指導内容や方法、授業展開について共通理解する。
 - ・ 電子黒板や書画カメラなどの ICT 機器を活用し、視覚・聴覚を通して、英語を学ぶ場面を増やす。
 - ・ ウォーミングアップとして英語の歌や、チャンツを行い、生徒が英語の授業は「楽しい」と感じ、それが授業への意欲につながるようにする。
 - ・ 1 年次に授業規律を徹底し、学習に対する基本的な姿勢・態度を養う。
 - ・ ALT の授業では、ネイティブの英語に数多く触れ、言語や文化に対する理解が深まるようにする。
- 2 「書く能力」を高めるために、基本的な文型や基本表現、文法事項を活用して英文を書く時間を確保する。
 - ・ 「話せる→書ける」という指導手順から、まず十分な発話量を確保し、音声面での定着を図る。
 - ・ ペアワークやグループワークを行い、相互に「学びあい、高めあう」活動の時間を確保する。
 - ・ ディクテーションやチャットを通して、「話した」英文を書く指導を継続的に行う。
- 3 「話す能力」を高めるために、段階に応じた音声指導とコミュニケーション活動を継続的に行う。
 - ・ 「話す能力」を伸ばすために、毎時間にチャットを行い、英語を話す場面を作る。
 - ・ 新出事項の導入を英語中心で行い、ペアワークを中心に口頭練習を多く取り入れて定着を図る。
 - ・ 教科書の音読練習 (choral reading, pair reading, buzz reading, individual reading) を効果的に取り入れる。
 - ・ スピーチ、スキット、暗唱などの発表活動の指導計画を立て各学年の実情に応じて取り入れる。
- 4 「読み取る能力」を身に付けるために、教科書や副教材を利用する。
 - ・ 教科書の内容をしっかりと読み取るために、基本的な語彙、文法、慣用表現の指導をていねいに、継続的に行う。
 - ・ 教科書の内容理解のために、Oral Interaction や、Q&A を取り入れ、文章の大意と詳細を読み取らせる。
 - ・ まとまりある英文を読み、概容を理解して自分の考えや意見を英語で表現する活動を行う。
 - ・ 帯学習 (3 学年) として 1～2 分で 50～100 語程度の英文を読む時間を作る。
- 5 「聞き取る能力」を高めるために、概要を聞き取る力と、詳細を聞き取る力の両面を高める指導を行う。
 - ・ 習熟度に応じたリスニング自主教材の制作と継続的な活動に取り組む。また、聞き取るべきポイントを事前に伝え、概要の掴み方の指導方法を明確にする。
 - ・ ALT との授業や普段の授業内で、英語に多く触れる時間を設定する。
 - ・ 授業は可能な限り英語で進め、特に導入時の teacher' s talk で日常的な英会話から授業に自然につながるよう、工夫をしている。
- 6 「言語や文化についての知識・理解の能力」を高めるために、目的を明確にした活動を行う。
 - ・ 学習する事項を、実際の生活の中の場面などに設定し、導入や活動を組み立てる。
 - ・ 語彙指導を各学年の実状に応じてきめこまやかに行う。適宜、スペリングコンテストを実施する。
 - ・ 生徒の理解の状況に応じて前年の教科書等を活用して、文法事項を復習する。
 - ・ 辞書指導を充実させ、語を理解する手段・方法を定着させる。
- 7 その他：小中一貫の取り組みを考える。
 - ・ 小学校での英語活動を踏まえ、中学校の英語へ円滑につなげられるように、各情報を共有し、指導方法の改善に役立てる。